



小児がん拠点病院の現況

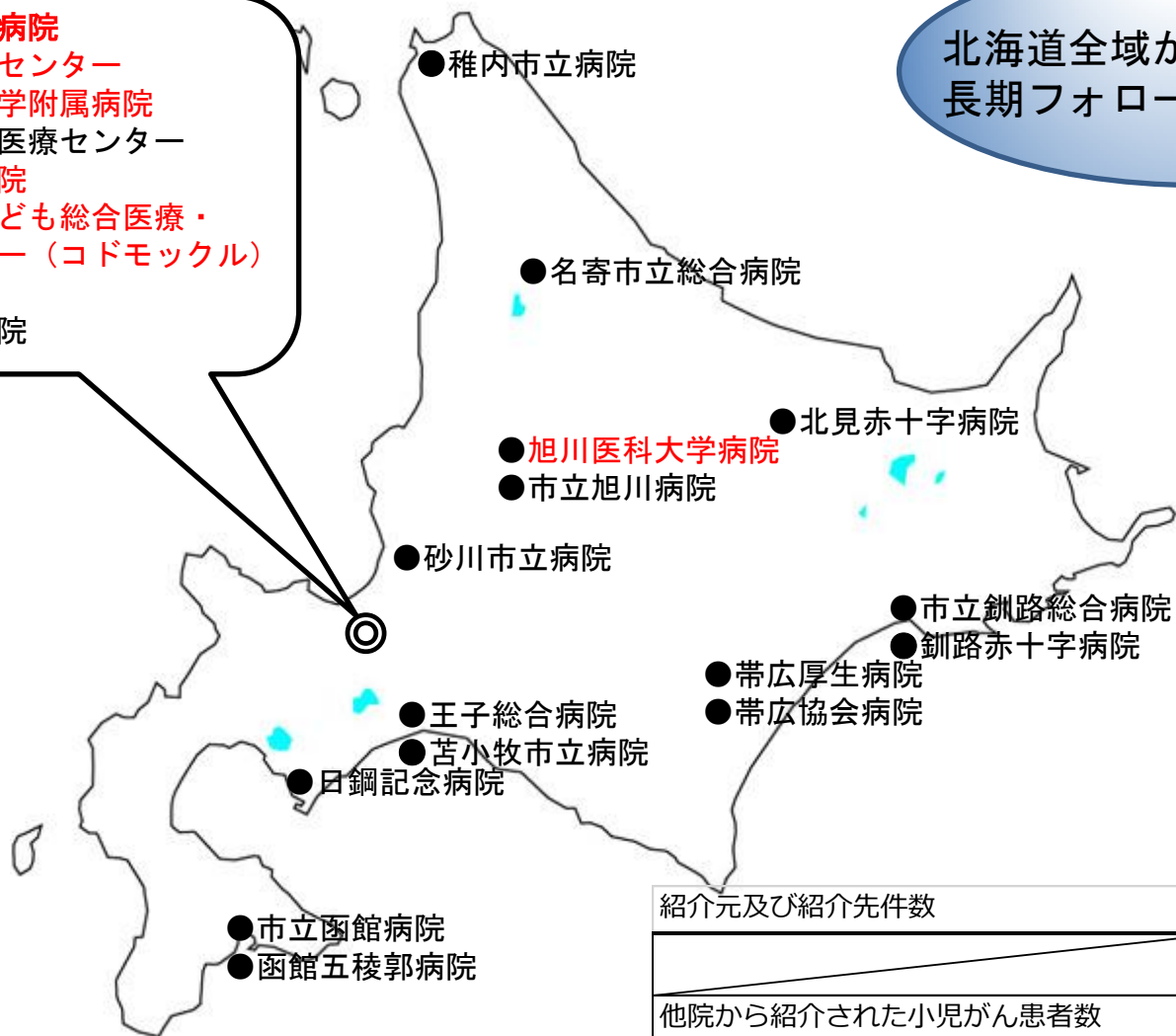
北海道ブロック
北海道大学病院

北海道ブロックの概要

★北海道大学病院

- 北海道がんセンター
- 札幌医科大学附属病院
- KKR札幌医療センター
- 札幌北榆病院
- 北海道立子ども総合医療・療育センター（コドモックル）
- 天使病院
- 市立札幌病院

北海道全域から患者を受入れ
長期フォローアップの連携



紹介元及び紹介先件数

	2012年	2013年	2014年
他院から紹介された小児がん患者数	47	58	37
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	31	40	25
小児がん患者の他施設への紹介患者	15	14	23
小児がん患者を紹介した医療機関数	14	11	20

北海道の地域特異性

- ・北海道は広い、しかし新幹線がない、高速道路は不十分。

札幌～根室	JRは直通なし	車で7.5時間	約450km
札幌～釧路	JRで4.5時間	車で5時間	約320km
札幌～函館	JRで4時間	車で4.5時間	約300km
札幌～稚内	JRで5.5時間	車で5.5時間	約350km
札幌～網走	JRで5.5時間	車で5.5時間	約350km

東京～名古屋 のぞみで1.6時間 車で4時間 約370km

- ・北海道は広大な割に人口が少ない(500万人)

小児がんの年間新規発症は80-100例と推定。

各地域(道北、道東、道南など)の発症数よりも道央圏の発症数が多い。

- ・小児がん診療施設は札幌と旭川にしかない。

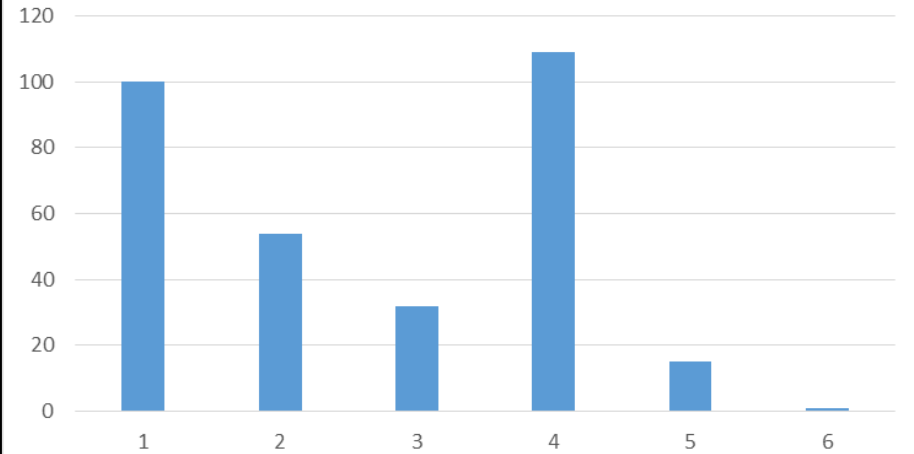
地域でのフォローが非常に重要(本当の意味での病病連携が必須)

拠点病院での院内教育や家族支援施設の充実が極めて重要

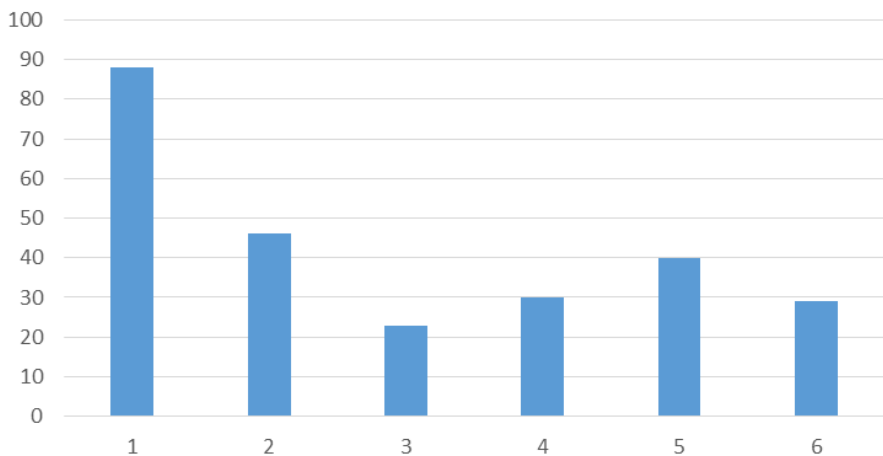
診療実績（北海道ブロック）

- ・2010年-2015年度の**新規**患者総計
- ・北海道内の小児がん診療病院から収集

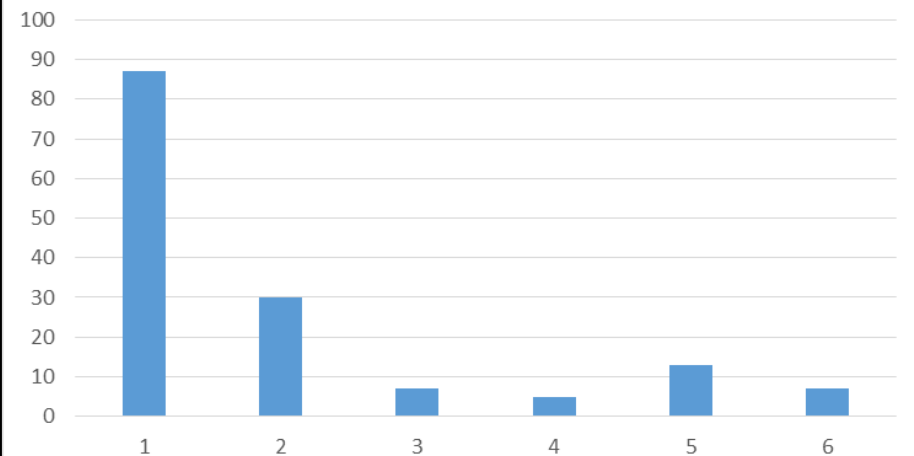
造血器腫瘍(2010-15)



固形腫瘍(2010-15)



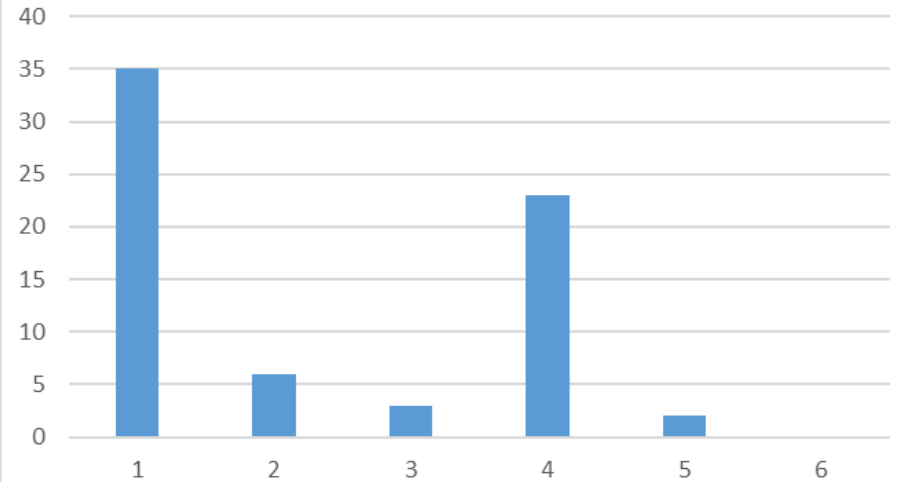
脳腫瘍(2010-15)



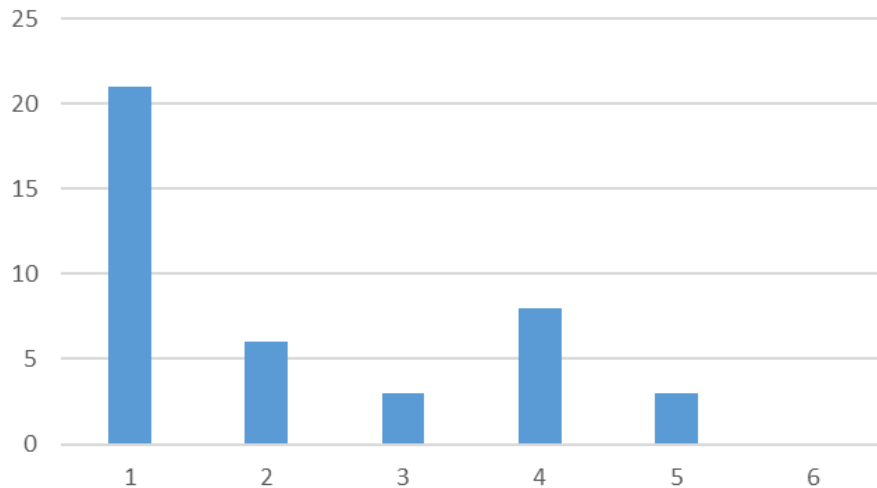
診療実績（北海道ブロック）

- ・2010年-2015年度の再発患者総計
- ・北海道内の小児がん診療病院から収集

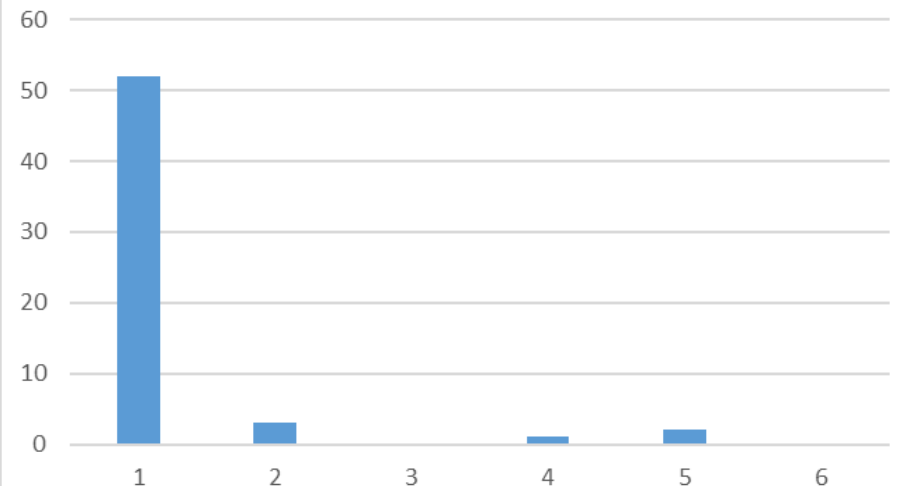
造血器腫瘍(2010-15)



固形腫瘍(2010-15)



脳腫瘍(2010-15)



小児がん拠点病院としての北海道大学病院(1)

(1) チームによる集学的治療の実施

- ・ キャンサーボードの定例化。
緩和ケアチーム（相互参加）や若手医師や研修医も参加
- ・ 療育やプレパレーションなどの積極的な展開
看護師 & CLS

(2) 再発・難治がんへの対応

- ・ 腫瘍センター内に小児がんチームが常設
専任の教員が採用
- ・ 小児造血幹細胞移植専用の無菌室増設
- ・ 新規治療や治験への積極的参加

(3) 病床確保の対応

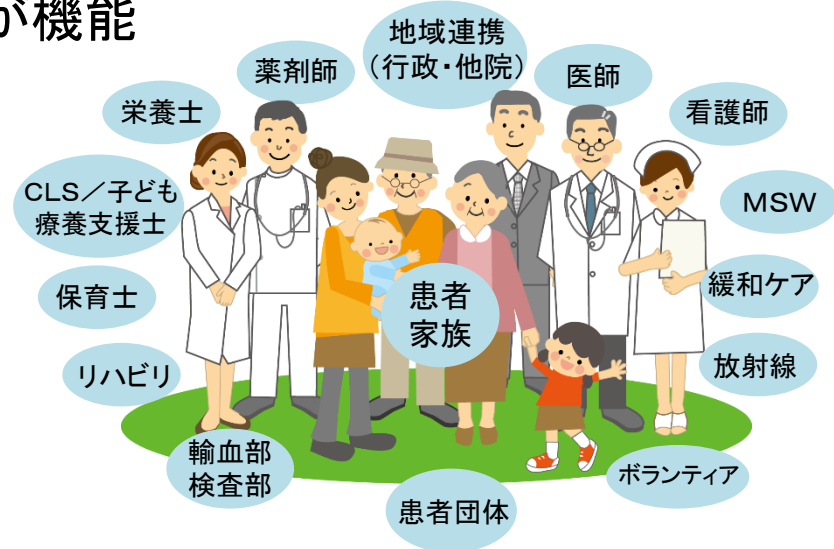
- ・ 新規の症例はほぼ即日入院可能。
北海道では、他施設に依頼することはない。
(北海道大学は最後の砦！)



小児がん拠点病院としての北海道大学病院(2)

(4) 思春期のがん患者/AYA世代への診療と長期フォローアップ

- ・小児がん診療に全病院を挙げて取り組む体制を構築
北海道大学病院小児がん拠点病院推進事業会議
- ・長期フォロー、生殖細胞保存の院内WGが機能
小児と成人の診療科の連携が確認



(5) 臨床研究の展開、参加

- ・JCCCGなどの多施設共同研究
- ・小児がん拠点病院を中心とした臨床研究

(6) 院内学級の整備、特に教員の増員。

- ・2015年度から小中学部の分校化が実現し教員数増加。
ベッドサイドでの授業が実現
- ・2017年度から支援級について養護学校との連携が開始となった。

小児がん拠点病院としての北海道大学病院(3)

(7) 北海道内外の小児がん診療病院との連携

- ・北海道全域から患者を受け入れ
- ・定期的な研究会や症例検討会が開催

(8) 地域連携のための取り組み

- ・小児がん専門医だけでなく小児神経や内分泌専門医が地域中核病院で出張外来の開設
- ・在宅医療機関と連携を強化
- ・地域中核病院での講演会・勉強会開催し、大学からも講演に出向く。

(9) 人材育成・交流、講演会開催

- ・小児がん勉強会、カンファレンス、講演会の定例化

(10) 行政(北海道)との連携

- ・2013年度に北海道と共同で北海道内の小児がん診療の実態調査を実施
- ・北海道の小児がん連携協議会に北海道の担当者が毎回参加。

2018年小児がん拠点病院事業計画(北海道大学)

1 小児がん医療従事者研修事業

時期	研修名	内容	対象
9月1日	小児がん医療者研修（造血幹細胞移植推進事業と合同で行う予定）	小児がんと造血幹細胞移植（仮）	医師・歯科医師・看護師・メディカルスタッフ・その他
未定	腫瘍センターセミナー 院内外の勉強会、講演会 3大学勉強会	陽子線治療 妊孕性について その他	医師・歯科医師・看護師・メディカルスタッフ・その他

2 小児がん拠点病院ネットワーク事業

時期	内容
9月1日	第3回 北海道地域小児がん医療提供体制協議会（北海道も参加） および相談支援部会
未定	地域中核病院での研修会、勉強会（複数個所）

3 がん相談支援事業

時期	内容			
9月1、2日	小児がん専門相談員研修		新規	看護師1名 MSW1名
11月3日	小児がん専門相談員継続研修		継続	
6月	小児がん拠点病院協議会			
12月	小児がん拠点病院協議会			
6月	小児がん拠点病院協議会看護部長会議			
12月	小児がん拠点病院協議会看護部長会議			
6月11日	小児がん拠点病院協議会相談支援部会			
12月11日	小児がん拠点病院協議会相談支援部会			
11月11日	市民公開講座	「いまの保育、教育はどうなっているの」	医師・歯科医師・看護師・メディカルスタッフ・その他、一般市民	

4 プレイルーム運営等事業

時期	内容	
不定期	おもちゃ、図書、製作道具など	
不定期	栄養管理部との協働 クッキング	

・ 診療機能
 キャンサーボード

時期	名称	対象	回数
毎週月曜日	血液腫瘍カンファランス	医師・看護師・薬剤師・ 子ども療養支援士・MSW	
毎週木曜日	脳腫瘍カンファランス	医師・MSW	
不定期木曜日	移植カンファランス	医師・看護師・メディカル スタッフ・子ども療養 支援士・保育士・MSWそ の他	10回予定
月1回火曜日	症例検討会	医師・看護師・メディカル スタッフ・子ども療養 支援士・保育士・MSWそ の他	10回予定
不定期	陽子線カンファランス	看護師・メディカルス タッフ・子ども療養支援 士・保育士・MSWその他	

・心の悩みや体験等を語り合うための場所及びその機会

時期	内容	対象	回数
第二金曜日	小児がん家族サロン「ゆるり」	北大病院に通院中または、入院中の家族	12回予定
第二水曜日	入院中の子どもと家族のための茶話会	北大病院5-1病棟に入院中の患者と家族	10回予定
未定	同窓会	小児がんを経験した北大病院の患者・家族と医療者	

・患者の発育及び教育等に関して必要な環境整備
退院時の復園及び復学支援

時期	内容	対象	回数
月1回月曜日	分校・病棟連絡会	ひまわり分校教員・医師・看護師・子ども療養支援士・保育士・MSW	9回予定
不定期	復学支援会議	原籍校教員・ひまわり分校教員・医師・看護師・子ども療養支援士・保育士・MSW	5回予定

北海道大学病院の取り組み

1) 多職種カンファレンス

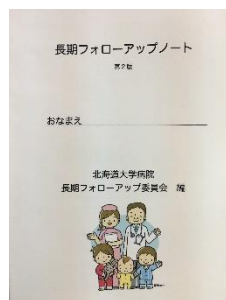
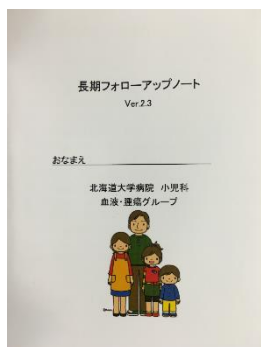
2) 緩和ケアチームとの連携

緩和ケアチーム構成員：腫瘍センター医師、精神科医師、麻酔科医師、看護師、臨床心理士、対象部署の関係者

緩和ケアチームカンファレンスと小児がんカンファレンスやキャンサーボードに相互参加

3) 長期フォローアップ外来

専任医師：3名



目次

- 1. 小児がん相談窓口について
 - (1) 小児がん相談員とは
 - (2) 相談実施機関
- 2. 医療費に関するもの
 - (1) 小児慢性特定疾患医療費助成
 - (2) 乳幼児（子ども）医療費助成
 - (3) 難病医療費助成
 - (4) 自立支援医療（育成医療）
 - (5) 高度心臓血管障害医療費助成
 - (6) 高額療養費制度
 - (7) 税金の医療費控除
- 3. 病状や治療にともなう障がいに関するもの
 - (1) 身体障害者手帳
 - (2) 療育手帳
 - (3) 障害者総合支援法（福祉サービス）
 - (4) 障害児就業手当
 - (5) 障害児福祉手当
 - (6) 小児慢性特定疾患児口学生活用補助事業
- 4. 療養生活支援
 - (1) 小児がん交通費等補助金制度
 - (2) がんの子どもを守る会療養費助成
 - (3) アフターケア小児がん経験者奨学金制度
 - (4) 小児がん「つなげたい」小児がん経験者奨学金制度（大学の部）
 - (5) 心のとりまわり基金（閉子保存）

- (6) 志村大輔基金（閉子保存）
- (7) オーダーメイドワークショップ無償提供事業
- (8) ファミリーハウス（家族宿泊施設）
- (9) パートシップ講演（生命保険）

5. 教育・就業支援

- (1) 教育相談や進路支援に関すること
- (2) 就労支援に関すること

6. 患者会・支援団体

- (1) 小児がん経験者の会
- (2) 難病や難治性の子どものもつ家族の会「すくすく」
- (3) ともどもキッズキャンプ
- (4) 若年がん患者団体「Stand up!!」
- (5) はるにのれい会（グループケア）

7. 情報収集

- (1) 小児がん情報サービス
- (2) がんの子どもを守る会

コラム

きょうだいがいるご家庭へ

※ 画面上の方が利用できる制度は、各ページにこのマークが記されています。

この冊子に記載された情報は、平成 27 年 9 月現在のものです。

4) AYA世代への支援 (次のスライド)

北大病院全体としての小児がん/AYA世代診療への取り組み

・長期フォローアップWG

メンバー構成:

小児科医、内科医、婦人科医、泌尿器科医、精神科医、放射線科医、脳神経外科医、看護師、社会福祉士、子ども療養支援士、事務担当者

小児がんサバイバーの長期フォローや成人の診療科への橋渡しの在り方を話し合う
AYA世代診療支援のための取り組みを話し合う

・生殖細胞保存WG

メンバー構成員:

小児科医、内科医、婦人科医、泌尿器科医、精神科医、放射線科医、乳腺外科医、脳神経外科医、看護師、社会福祉士、子ども療養支援士、事務担当者

既存の説明文書、パンフレット、国内外のガイドラインなどを参考とした、ガイドライン(案)および同意・説明文書(案)の作成

```
graph TD; A[既存の説明文書、パンフレット、国内外のガイドラインなどを参考とした、ガイドライン(案)および同意・説明文書(案)の作成] --> B[北海道大学病院に提言]; B --> C[患者さん向けのパンフレットや同意説明文書作成(若年成人、思春期、児童、代諾者向け)];
```

北海道大学病院に提言

患者さん向けのパンフレットや同意説明文書作成(若年成人、思春期、児童、代諾者向け)

今後の課題

(1)患者・家族が長期滞在できる施設の増設・整備

- ・現在のファミリーハウスは常に満員。

増設費用やホテル補助には一定の財政援助が必要である。

(2)小児医療を目指す人材の確保

- ・小児科や小児外科を志望する若い研修医が増加していない。

自助努力だけでは人材は集まらない。

小児の診療報酬の増額など小児医療が病院経営に寄与できるような施策

小児科医の時間外労働軽減のための全診療科を挙げての取り組み

子育て中の女性医師の復職支援と女性医師自身の時間外勤務への努力

- ・小児看護専門看護師は今年度に取得予定

(3)AYA世代支援への取り組み

- ・院内教育施設としての高等学校の設置

義務教育でない高等学校の整備はハードルが高い。

小児がん拠点病院については院内教育施設としての高等学校の設置を義務化するなどの施策がないと現行の教育制度のなかでは、院内施設として高等学校の設置は非常に困難
各自治体には資金的余裕がないため、各自治体の自助努力だけでは実現しない。

- ・AYA世代への支援体制はまだ不十分

長期フォロー、生殖細胞保存の体制は構築されている

入院診療、就学、就労などの課題に対して診療科を超えた支援体制構築が必要。